

EUROPE



AN UDO ARTISTS PRESENTATION 1986

EUROPE

ヨーロッパ

日本公演

9月6日 東京 厚生年金会館大ホール

主催●文化放送/ウドー音楽事務所

9月8日 東京 サンプラザホール

主催●文化放送/ウドー音楽事務所

9月9日 東京 郵便貯金ホール

主催●文化放送/ウドー音楽事務所

9月10日 東京 サンプラザホール

主催●文化放送/ウドー音楽事務所

9月11日 名古屋 愛知厚生年金会館

主催●中部日本放送

9月13日 大阪 厚生年金会館大ホール

主催●ウドー音楽事務所

招聘●ウドー音楽事務所

協力●ビクター音楽産業

Design by DAVID CORP.
Printing by L.D.KIKAKU



PE

大ホール

ル

レ

ル

金会館

大ホール



EUROPE

これまで北欧及び日本で高い人気を獲得してきたスウェーデンの看板ハード・ロック・バンド、ヨーロッパが最新アルバム『ファイナル・カウントダウン』をもって世界へ向けてはばたき始め、まずは日本を侵略中だ。

バンドは1980年に、ジョーイ・テンベスト(Vo)、ジョン・ノールム(G)、ジョン・レヴィン(B)、トニー・レノ(Ds)によってスウェーデンのストックホルムで結成された。初めはフォースと名乗り、デモ・テープを創りレコード会社にアプローチを試みたり、コンサート活動を展開するが、うまく行かず終わる。だが、2年後、グループ名をヨーロッパにし、国をあげてのROCK-SM大会のフィナーレに出場したところ、多くのバンドを押さえて優勝。そして、この時に知り合ったトーマス・アードマンをマネージャーに迎え入れ、彼が創立したレコード会社から83年1月にアルバム『幻想交響詩』でデビューを飾る。

当時、スウェーデンではハード・ロックが隆盛をきわめており、演奏旅行に出かけた彼等は各地で大受けとなり、大成功を収める。日本では10月にアルバムが紹介され、北欧からのハー

ド・ロック・バンド登場は話題を呼んだ。翌84年春、セカンド・アルバム『明日への翼』を発表。この中からシングル「明日への翼」、「オープン・ユア・ハート」、「ドリーマー」が次々に大ヒットし、本国で高い人気を獲得すると共に、日本でも爆発的なセールスを記録する。日本での成功は、世界へ飛躍するステップとなり、バンドがスウェーデンやフィンランドをツアー中に、マネージャーはアメリカのEPICレコードの副社長と、日本を除く世界を対象としたレコード契約を交わす。

着実に1歩1歩前進し始めたヨーロッパは、レコード同様ライブでもキーボード・プレイを必要とするようになり、コンサートにキーボード奏者のミック・ミカエリを迎え入れ、5人編成でツアーに出かけるようになった。そして、ミックを正式メンバーに加えるが、84年秋にメンバー・チェンジが発生、ドラマーのトニーがバンドを離れ独立することになった。そこで、古くからヨーロッパと仕事をしてきた若き有能なドラマー、イアン・ホーランドが選ばれ、現在のラインナップで再スタートを切る。

85年春、“On The Loose”という映画をもって大々的な全国ツアーを遂行。好評を博した彼等は、9月にスイスのチューリッヒで新作のレコーディングを開始する。だが、ジョーイが喉

を痛めたため、作業は一時中断となり、フロリダでの静養期間を経て、アトランタでレコーディングは再開された。そして、今年の3月、カリフォルニアのバークレーでレコーディングを完了させ、ハイ・ヴォルテージのサード・アルバム『ファイナル・カウントダウン』は誕生した。

EPICレコードのトップ・プライオリティ・アクトに指名された86年、ヨーロッパはサード・アルバムをリリース。シングル「ロック・ザ・ナイト」は母国で大ヒットとなり、ヒット・チャート史上初のハード・ロック・シングルに輝く。日本でもアルバムが大ベスト・セラーとなり、初の上陸と相なった。

バンド結成から6年近くの歳月を経て、スウェーデンから世界進出にのり出したヨーロッパ。今、その1歩を日本で刻む。





翌84
を
「オー
次々に
と共に、
日本で
り、バ
アー中
ードの
ンコー
は、
ニを
ーボー
5人編
して、
火にメ
ニーが
こで、
き有能
ばれ、

をもっ
した彼
作のレ
イが喉

を痛めたため、作業は一時中断となり、フロリ
ダでの静養期間を経て、アトランタでレコー
ディングは再開された。そして、今年の3月、カ
リフォルニアのバークレーでレコーディングを
完了させ、ハイ・ヴォルテージのサード・アル
バム『ファイナル・カウントダウン』は誕生し
た。

EPICレコードのトップ・プライオリティ・ア
クトに指名された86年、ヨーロッパはサード・
アルバムをリリース。シングル『ロック・ザ・
ナイト』は母国で大ヒットとなり、ヒット・チ
ャート史上初のハード・ロック・シングルに輝
く。日本でもアルバムが大ベスト・セラーとな
り、初の上陸と相なった。

バンド結成から6年近くの歳月を経て、スウ
ェーデンから世界進出にのり出したヨーロッパ。
今、その1歩を日本で刻む。



EUROPE

JOEY TEMPEST

ジョーイ・テンベスト(Vo)

ヨーロッパのオリジナル曲を手掛けるリーダー&リード・ヴォーカリスト、ジョーイ・テンベストは、1963年8月19日、スウェーデンのフレスタに生まれる。作曲、歌のみならず全ての楽器をこなすマルチ・プレイヤーであり、最近プロデューサーとしても優れた才能を発揮している。

JOHN NORUM

ジョン・ノーラム(G)

北欧を代表する実力派ギタリスト、ジョン・ノーラムは、1964年2月23日にノルウェーに生まれる。音楽一家に育ち、13才の頃からギターを弾き始める。数々のバンドを転々とし、ジョーイ・テンベストとヨーロッパを結成した。

JOHN LEVE'N

ジョン・レヴィン(B)

1963年10月25日、スウェーデンのストックホルムに生まれたジョン・レヴィンは、15才の時にベース・ギターを手にする。ヨーロッパに参加する前に、イングヴェイ・マルムスティーンと演奏したことがある。

IAN HAUGLAND

イアン・ホーグランド(Ds)

オリジナル・メンバーだったトニー・レノの後釜として、84年秋にヨーロッパに加入したイアンは、1964年8月13日、ノルウェーのノードレイサー生まれ。

MIC MICHAELI

ミック・ミカエリ(Key)

セカンド・アルバム『明日への翼』発表後の北欧ツアーに参加し、正式メンバーとなったミックは1962年11月11日、スウェーデンのエドに生まれる。現在ではジョーイの良き相棒としてバンドのサウンド・アレンジの要となっている。

IAN HAUGLAND

JOHN LEVE'N

MIC MICHAELI



IAN HAUGLAND

JOHN LEVEIN

MIC MICHAELI

JOEY TEMPEST

JOHN NORUM







理想的な方向性を選び、順風満帆の旅を続けるヨーロッパ

伊藤政則

MASA ITO

我々が北欧に対して抱くイメージは、神秘的且つ幻想的な精神世界である。北欧諸国にスポットライトが当たる機会が少ないこともあって、未知なる国へのイメージは不思議な響きを内包する。スウェーデン出身のヨーロッパのデビュー・アルバムが邦題が『幻想交響詩』と名付けられた背景には、こういったイメージの彷徨が隠されている。しかし、“幻想〜”という思い入れは我々の一方的な解釈ではなかった。事実、ヨーロッパは「セヴン・ドアーズ・ホテル」という名曲でファンタジー世界を描写していたし、また、彼らの音楽性の根底に流れるクラシックへの憧れが、より強い形で“北欧”の幻想を主張していたのである。

彼らは“北欧”を強く意識しているわけではない。デビュー・アルバムが発売されて間もなくストックホルムでヨーロッパの連中と会った時、ジョーイ・テンベストは“僕らは普通のハード・ロック・バンドだ”と言いながら“何故、遠く離れた日本で人気が出たのか”と首をかしげていた。

すべては〈血〉なのである。いかにアメリカで成功しようともイングヴェイ・マルムスティーンにはスウェーデン人としてのメロディがあり、マイケル・シェンカーにはドイツ人としてのメロディがあるのだ。アメリカの大舞台に立ったラウドネスの高崎晃には、やはり日本人独特のメロディがある。

ヨーロッパというバンドの音楽には消えることのないスウェーデン人としてのメロディがあって、それは意識する意識しないといった次元

の問題では解決されない、いわば〈血〉の本能的な旋律となって表現されているのである。

“何故、ヨーロッパが日本で脚光を浴びたのか”というジョーイ・テンベストの疑問を解く鍵は、彼らの血に潜むメロディにある。日本人が好むハード・ロックの理想像は、英米のロックン・ロール志向とは一線を画す、いわばメロディ至上主義の形態である。古くはディープ・パープルのスタイルにその理想形態があり、メロディに固執する精神の派生として、その後はゲイリー・ムーアやマイケル・シェンカー、ランディ・ローズを経てウォーレン・デ・マルティーニといったギタリストの流れにたどり着く。

ヨーロッパのリード・ギタリストは大のゲイリー・ムーア狂である。というよりも、ヨーロッパのメンバーはメロディのインパクトの強いバンドに深く傾倒していて、ヨーロッパを結成した時、リーダーのジョーイ・テンベストの目標は、日本人が理想とするハード・ロック・バンドの方向性と偶然にも一致する形態にあった。ヨーロッパの日本での成功劇は、両者の理想像の一致がもたらした産物だった。ジョーイ・テンベストがセカンド・アルバム『明日への翼』のプロモーションで来日した際に、その事実を確認して、彼は成功の謎解きに成功する。

ヨーロッパは本国で異常な人気を博している。レコードのセールスに関していえば、国民的な英雄と呼ばれたアバをも凌ぐ記録を更新中だという。アイドル的なロック・バンドの道歩んでいる。しかし、彼らの音楽にはアイドルという軽薄な言葉で処理できぬ高等な技術と豊かな

才能が脈打っている。それを見抜いたからエピック・レコードが世界の配給に乗り出したのである。エピック・レコードのA&Rのチーフは“ジョーイ・テンベストはスティーヴ・ペリー以来の偉大なヴォーカリストだ”と絶賛したというが、確かに彼の天才マルチ・プレイヤーとしての資質がヨーロッパの支柱となっている。彼は“『ファイナル・カウントダウン』は最高の曲だ。名曲である”と絶対の自信で断言した。実際に本国でゴールド・ディスクを獲得したのだから、ジョーイ・テンベストの言葉に嘘はない。

ヨーロッパの生き方は現代ハード・ロック・シーンの中で理想的な方向性を選択している。ルックスの良さと若さがアイドルとしてのファン層を開拓しているし、流行を追わない伝統的なスタイルを踏襲しているのも、LA-Metalのクローン群と明らかに一線を画している。しかも、サウンドが適度にポップで、ハード・ロックの攻撃性、そしてジョン・ノーラムの驚異的なギター・テクニックと様々な要素が凝縮されているのである。プリズムの屈折する光線のように、彼らのアルバムは何重もの色合いによって包み込まれている。

4年程前、ヨーロッパの連中は“日本でプレーするのが夢なんだ”と話していた。“まさか実現するとは思わなかった”というのが本音だろう。しかし、ヨーロッパは自分の力で来日公演をつかんだ。彼らの順風満帆の旅はまだまだ続く。東洋の日本を征服した後には大国アメリカが彼らを待ちうけているのだ。



けるヨーロッパ

の本能
る。
びたの
を解く
日本人
のロッ
ばメロ
ープ・
り、メ
の後は
、ラ
マルテ
着く。
のゲイ
ヨーロ
の強い
を結成
トの目
・バン
った。
理想像
イ・テ
の翼」
事実を
。いる。
民的な
中だと
を歩ん
ルとい
豊かな

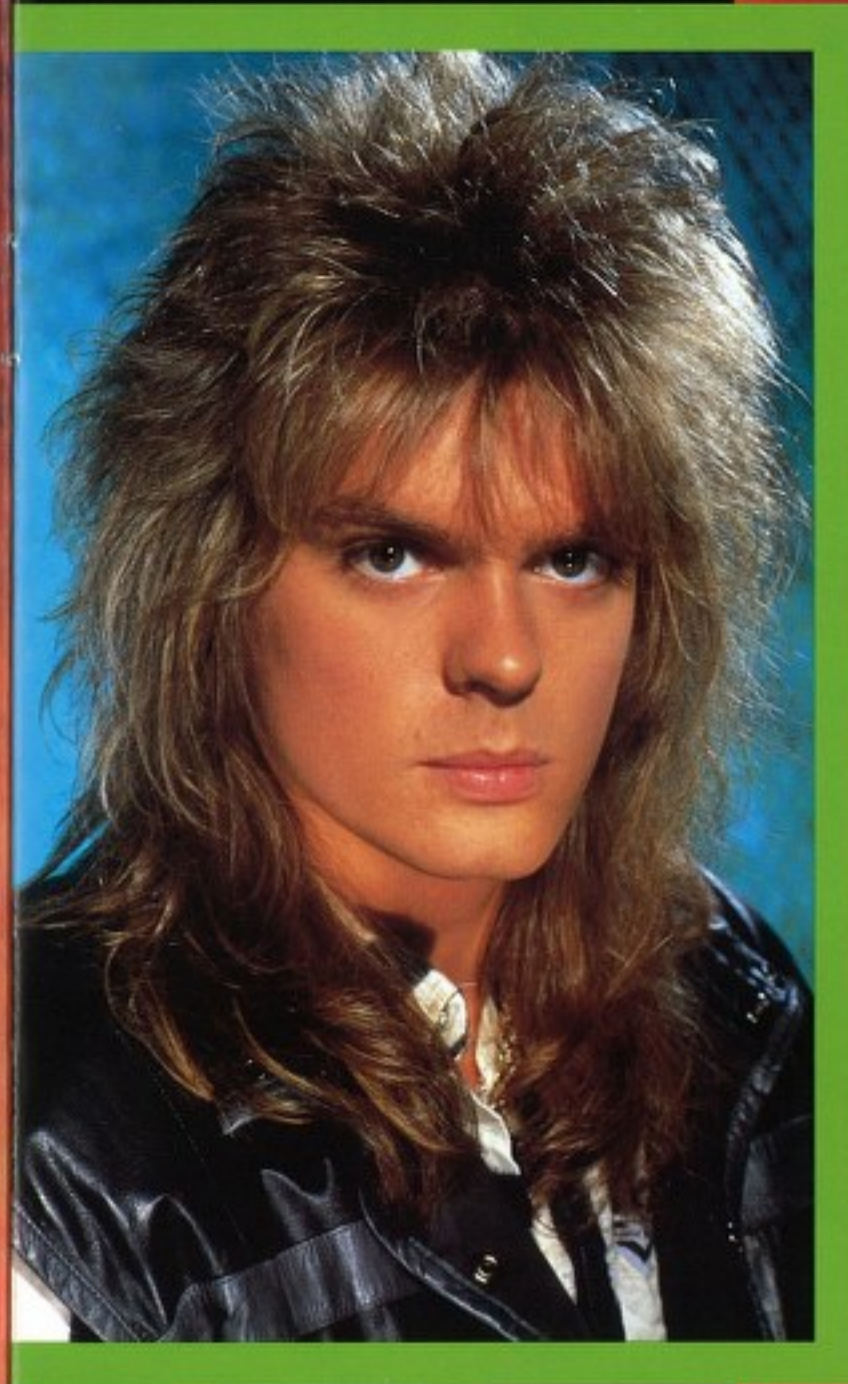
才能が脈打っている。それを見抜いたからエピック・レコードが世界の配給に乗り出したのである。エピック・レコードのA&Rのチーフは「ジョーイ・テンベストはスティーヴ・ペリー以来の偉大なヴォーカリストだ」と絶賛したというが、確かに彼の天才マルチ・プレイヤーとしての資質がヨーロッパの支柱となっている。彼は「ファイナル・カウントダウン」は最高の曲だ。名曲である」と絶対の自信で断言した。実際に本国でゴールド・ディスクを獲得したのだから、ジョーイ・テンベストの言葉に嘘はない。

ヨーロッパの生き方は現代ハード・ロック・シーンの中で理想的な方向性を選択している。ルックスの良さと若さがアイドルとしてのファン層を開拓しているし、流行を追わない伝統的なスタイルを踏襲しているのも、LA-Metalのクローン群と明らかに一線を画している。しかも、サウンドが適度にポップで、ハード・ロックの攻撃性、そしてジョン・ノーラムの驚異的なギター・テクニックと様々な要素が凝縮されているのである。プリズムの屈折する光線のように、彼らのアルバムは何重もの色合いによって包み込まれている。

4年程前、ヨーロッパの連中は「日本でプレーするのが夢なんだ」と話していた。「まさか実現するとは思わなかった」というのが本音だろう。しかし、ヨーロッパは自分の力で来日公演をつかんだ。彼らの順風満帆の旅はまだまだ続く。東洋の日本を征服した後には大国アメリカが彼らを待ちうけているのだ。





















“北欧”のイメージを消して、

酒井 康 (BURRN/)

KOH SAKAI

イギリス、アメリカ(カナダを含む)以外——つまり、英語圏外のHM/HRバンドが世界的な成功を収めるのは非常に困難とされている。あのスコピオンズでさえ、世界制覇を文字どおり成し得たのはアルバム『BLACKOUT』のビッグ・セールスからであった。ましてや、一般的ではないHM/HRであるからして、これは、実は大変な偉業と考えなければならない。

スコピオンズの成功の裏には、様々な要因があった。言葉(歌詞——英語)、曲作り、そして、ドイツ出身というイメージを捨てたことなど……彼らの成功は英・米以外のバンドに勇気と希望を与え、同時に海外進出への教科書となった。

北欧のHM/HRバンドが世界的な成功を得る道も、言葉、曲を除けばたった1つしかない。“北欧”というイメージを捨てることだ。母国スウェーデンの現状に見切りをつけ、早い時期に渡米、技術至上主義に徹してアメリカのファンの度肝を抜いたイングヴェイ・J・マルムスティーン、デビュー当初から北欧らしさを微塵も感じさせず、LAメタルのエッセンスを上手く凝縮させたサウンドで成功への道を歩み続けるトリートを見れば、幻想的でロマンティックな“北欧”というイメージが、実は北欧のバンドにとって重荷、成功へのさまたげになっていることがわかる。つまり、“北欧”を捨てたからこそ、イングヴェイやトリートの成功があるわけだ。

スウェディッシュ民謡の有名な一節を導入した『Seven Doors Hotel』はアッという間に日本のHRファンをトリコにし、ヨーロッパという名前を決定的なものにしたが、もしも、同じ路線を続けていたとすれば、日本公演ソールド・アウトもEPICアメリカ(CBSインターナショナル)との契約もなかったのではないかと

思う。
ジ
「The
いア
を感
零圓
方を
日
重視
うも
ナヴ
持ち
そう
ると
とし
全米
もあ
マイ
ーア
に」
クセ
た。
以
殆ど
つき
うか
国の
で通
レコ
考え
消息
の域
いる
勿
アを



“北欧”のイメージを消して、世界へ飛び出したヨーロッパ

酒井 康 (BURRN)
KOH SAKAI

イギリス、アメリカ(カナダを含む)以外——つまり、英語圏外のHM/HRバンドが世界的な成功を収めるのは非常に困難とされている。あのスコーピオンズでさえ、世界制覇を文字どおり成し得たのはアルバム『BLACKOUT』のビッグ・セールスからであった。ましてや、一般的ではないHM/HRであるからして、これは、実は大変な偉業と考えなければならない。

スコーピオンズの成功の裏には、様々な要因があった。言葉(歌詞——英語)、曲作り、そして、ドイツ出身というイメージを捨てたことなど……彼らの成功は英・米以外のバンドに勇気と希望を与え、同時に海外進出への教科書となった。

北欧のHM/HRバンドが世界的な成功を得る道も、言葉、曲を除けばたった1つしかない。“北欧”というイメージを捨てることだ。母国スウェーデンの現状に見切りをつけ、早い時期に渡米、技術至上主義に徹してアメリカのファンの度肝を抜いたイングヴェイ・J・マルムスティーン、デビュー当初から北欧らしさを微塵も感じさせず、LAメタルのエッセンスを上手く凝縮させたサウンドで成功への道を歩み続けるトリートを見れば、幻想的でロマンティックな“北欧”というイメージが、実は北欧のバンドにとって重荷、成功へのさまたげになっていることがわかる。つまり、“北欧”を捨てたからこそ、イングヴェイやトリートの成功があるわけだ。

スウェディッシュ民謡の有名な一節を導入した「Seven Doors Hotel」はアッという間に日本のHRファンをトリコにし、ヨーロッパという名前を決定的なものにしたが、もしも、同じ路線を続けていたとすれば、日本公演ソールド・アウトもEPICアメリカ(CBSインターナショナル)との契約もなかったのではないかと

思う。

ジョーイ・テンベストの才能が満ち溢れた「The Final Countdown」に代表される、新しいアプローチが施された曲作り、加えて、北欧を感じさせない、ボン・ジョヴィやラット風な雰囲気がアメリカのメジャー・レーベルのお偉方を動かすことに成功したわけだ。

日本のHRファン気質というのは、メロディ重視、クラシカルなフレーズ、泣くギターというものに弱い。従って、ヨーロッパやスカンジナビアのHM/HRを受け入れる体質は充分持ちあわせてはいるが、イギリス、アメリカはそうはいかない。過去を振り返ってみればわかるとおり、日本で美旋律とか様式を持ったHRとして高い支持を得ていたアーティストでも、全米TOP20にランクされなかった例はいくつもある。リッチー・ブラックモアのレインボー、マイケル・シェンカーのMSG、ゲイリー・ムーア・バンド、「スラブ行進曲」「エリーゼのために」のウルフ・ホフマンをフィーチャーしたアクセプトなど、ツアーをしても成功はしなかった。アメリカはそういう国なのだ。

以前、スウェーデンで現地取材を行なったが、殆どのバンドが大変な錯覚をしているのに気がつき、驚いたことがある。彼らは物の見方というか、視野が非常に狭く、自分達のルーツ、母国の歴史を題材にしたものが世界——アメリカで通用すると思っているのだ。更には、簡単にレコードがリリースされる日本を世界への扉と考えているようだが、そうしたバンドは次々と消息を絶つか、結局はドメスティック・バンドの域を脱せず、細々と国内サーキットを続けている状態だ。

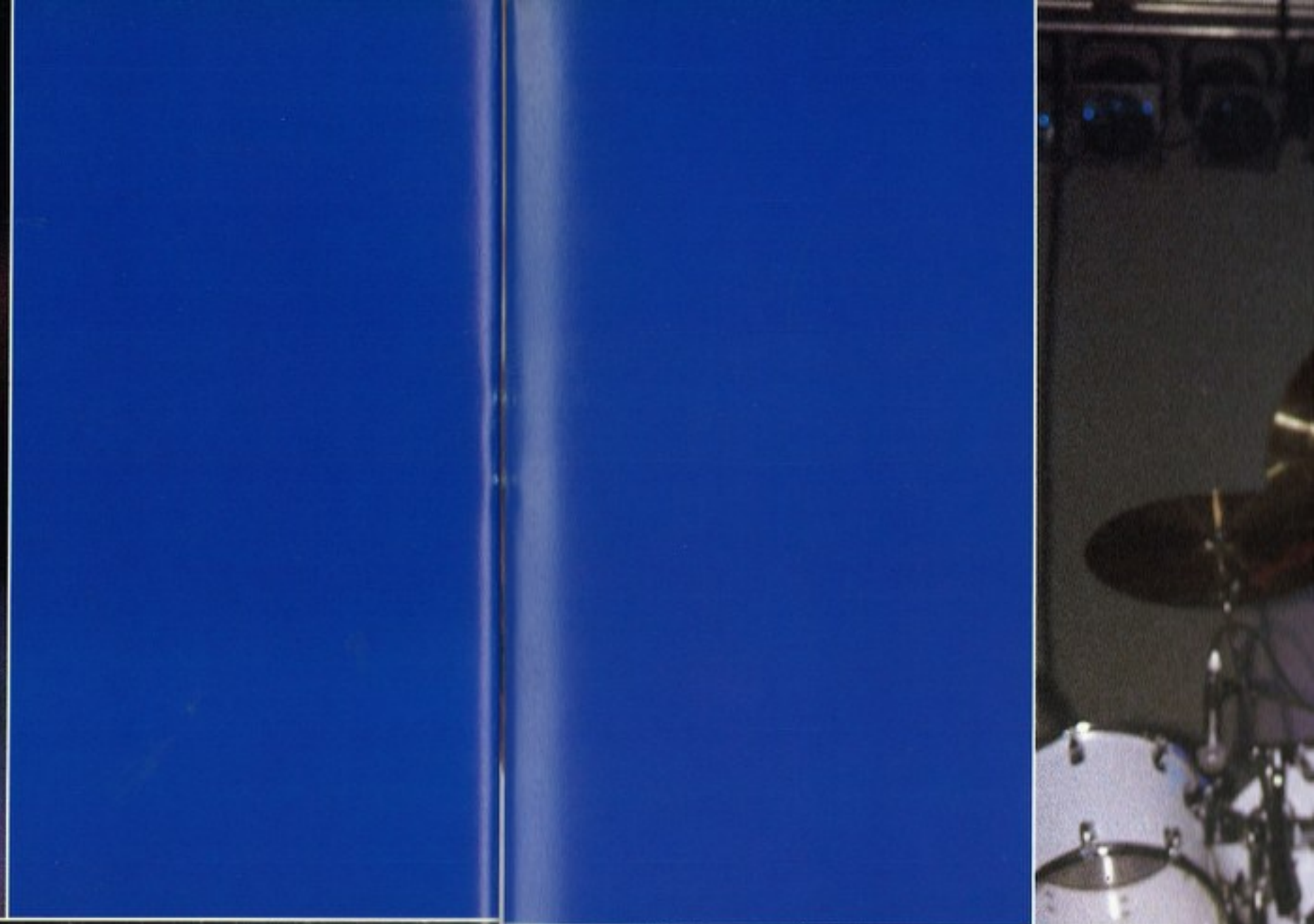
勿論、ヨーロッパにしても、やっと日本のドアを開けたばかりで、アメリカという巨大なマ

ーケットの足掛かりは作ったとはいえ、結果的には未知のものだ。ただ、成功への道がどういうものなのか、どうすればいいのかということに気がついている。だからこそ、エイジア的アプローチの「The Final Countdown」を生み、国内においても数々のヒット・チューンを生み出し、北欧にもこういうバンドが存在するのだということを訴えてきた。

その訴えの中に、先述した“北欧を捨て去った”ということがあるわけだ。ヨーロッパの1st、2ndアルバムは紛れもなく、“北欧”以外の何モノでもなかった。しかし、その時点で彼らは“世界”を考え、“北欧”のイメージを消す決心をした。日本だけを考えてみても、「Seven Doors Hotel」時代と比較して急激にファンが増えたのも、北欧メタル・マニア専門バンドから幅広いファンの支持を得ようとした作戦が見事に成功したからだと思う。

だが、当然の結果として批判も実際にあがっている。同じスウェーデンの某バンドはヨーロッパに対して“単なるポップ・バンド、アイドル・バンド”と指摘したが、これは負け犬の遠吠えである。そのバンドは今も一部の北欧マニアだけに支持されているだけで、相変わらず北欧サウンドに固執している。

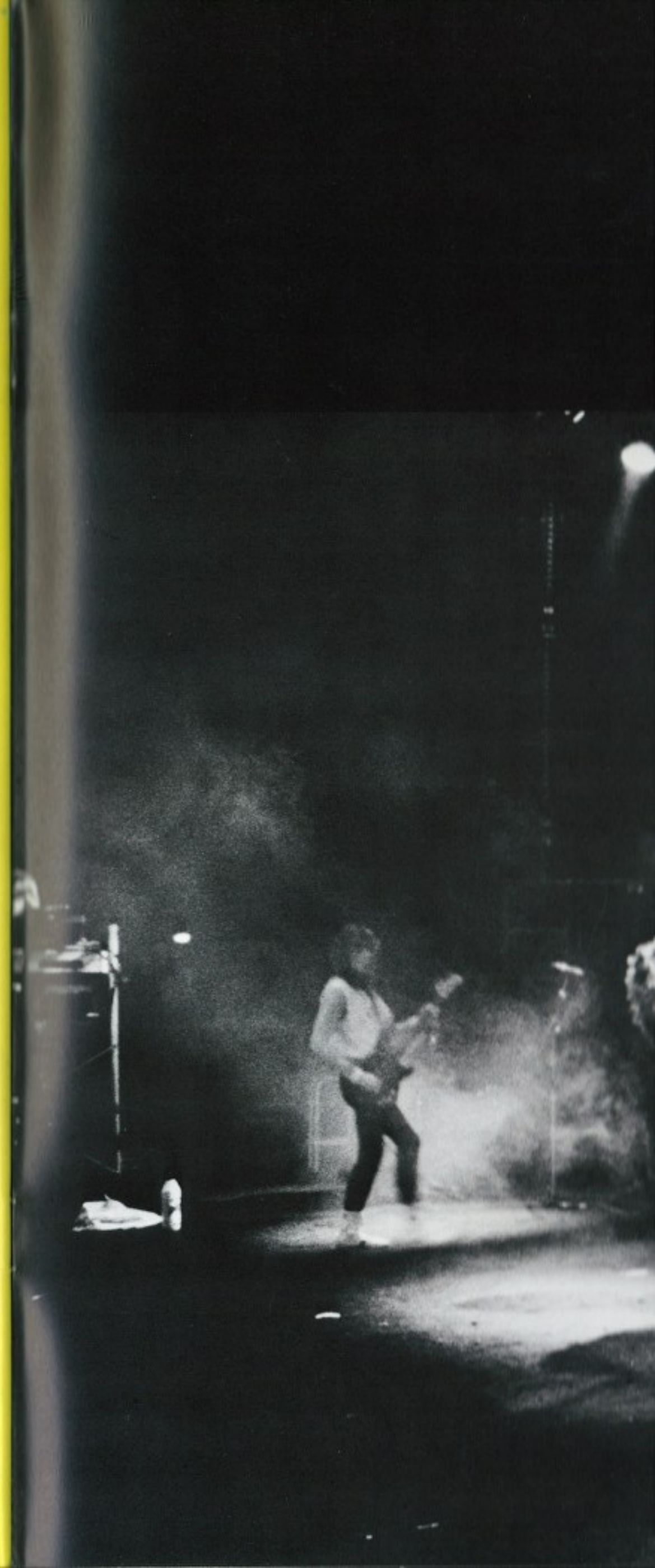
アメリカを制するものは世界を制する、と言われるロック・シーン。それを最大のテーマとしてヨーロッパが第2の関門である日本に初上陸した。今夜のライブが彼らの将来を暗示するだろう。成功か、失敗か……スコーピオンズになれるか否か……ジョーイ・テンベストと仲間達は大きな野望を抱いて、今、ファンの心のドアをノックする！

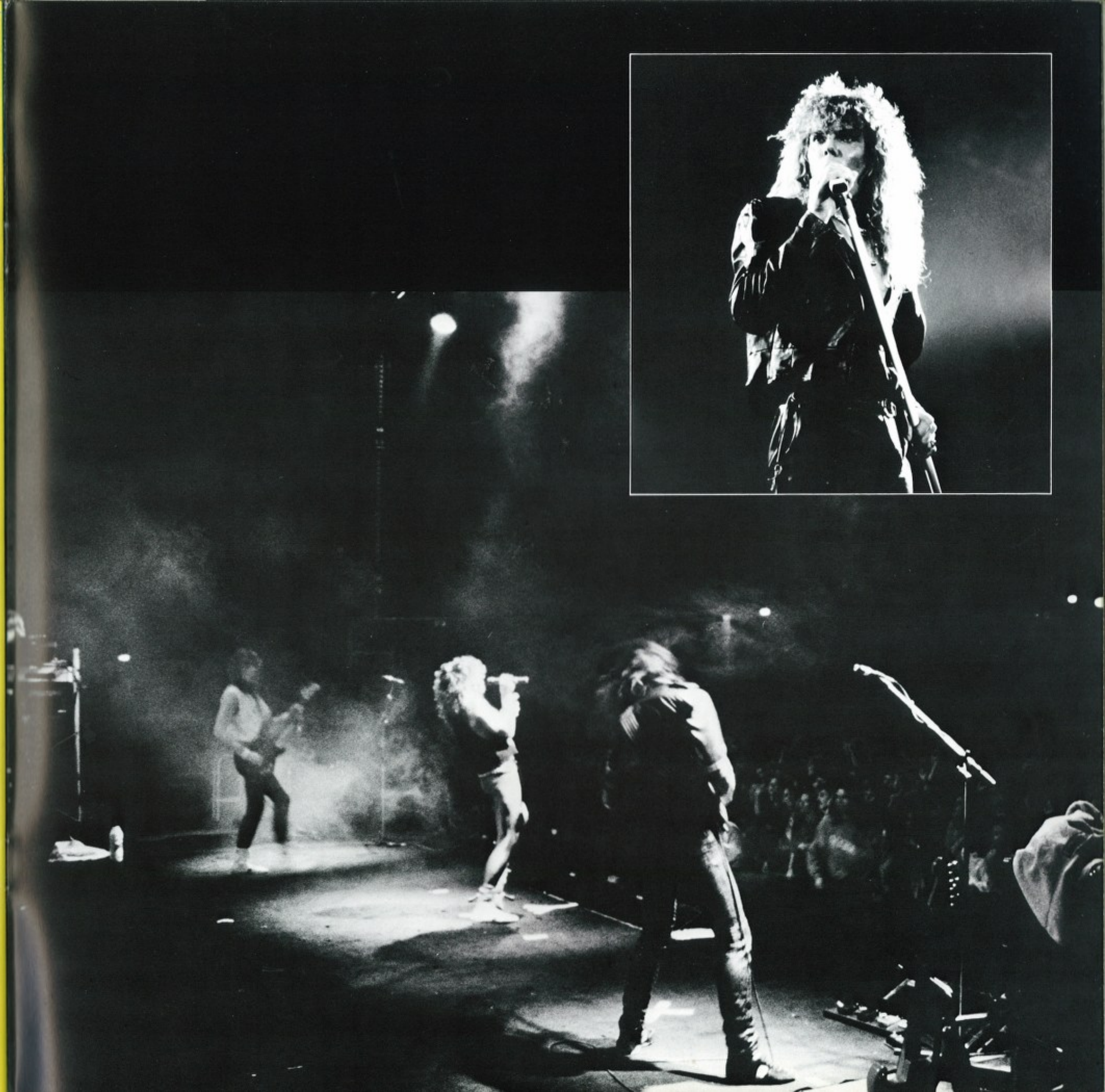














世界制覇を予告する!



'84年4/29~5/27、全人口
ウェーデン・ツアーの最終
を収録。国営TVの協力を
により、ヨーロッパの真価
アーへ向けて彼らの世界制覇

Victor
JVC

9月13日 全国一斉縦断ロ

■ハード・ロックのヒーローたち"ヨーロッパ、マディソン"
の力強いサウンドとバイクの爆音が融合。

世界GP三連覇のキング・ライダー、ケニー・ロバート、有難なレースに
生命を賭け、死との狭間を駆け抜ける勇者たちのドキュメント映画、「ブラ
イド・ワン」。男達の闘いと孤独を忠実に表現したサウンドトラック盤!

曲目
■ラブ・チェイサー/ヨーロッパ
■ケリー/ヨーロッパ
■ピクチャーズ・リターン/マディソン
■レイダウン・コア/マディソン
全11曲

スピン・オフ
「ラブ・チェイサー」(3-CD)
©VPL-1849 ¥1980
好評発売中

■ファイナル・カウントダウン・フェア



アメ

「ヨーロッ

★往年秋 アメリ
カ・コンサート
世界制覇に乗り



世界制覇を予告する!

ジョーイにかぶりつき!

EUROPE

THE FINAL COUNTDOWN TOUR '86

ライブ・イン・ストックホルム
ヨーロッパ

ビデオ ステレオHi-Fi カラー
VHS VTM-108 BGM-108
各 ¥7,800 ● 好評発売中

VIDEO DISC ODM-1053 ¥5,800
● 9月21日発売

THE FINAL COUNTDOWN
NINJA
CARRIE
ON THE LOOSE
CHEROKEE
TIME HAS COME
OPEN YOUR HEART
STORMWIND
ROCK THE NIGHT

初ビデオ

'84年4/29~5/27、全人口の40%、15万人の観客を動員したスウェーデン・ツアーの最終地、ストックホルムでのコンサートを取録。国営TVの協力を得て制作された初のライブ・ビデオにより、ヨーロッパの真価を見た。9月の来日、そして全米ツアーへ向けて彼らの世界制覇は、今、まさに秒読み態勢入り!



好評発売中



ファイナル・カウントダウン
VIL-28019 Ld VCL-10010
各 ¥2,800
CD VDP-1083 ¥3,200



明日への翼
VIL-6095 Ld VCV-1826
各 ¥2,500
CD VDP-29 ¥3,500

幻想交響詩
VIL-6067 ¥2,500

9月13日 全国一斉縦断ロードショー

栄光と死、この背中合わせの青春を生きぬいてきた男達!

■ハード・ロックのヒーローたち「ヨーロッパ、マティソン」の力強いサウンドとバイクの爆音が融合。

世界GP三連覇のキング・ライダー、ケニー・ロバート、奇跡なレースに生命を賭け、死との狭間を駆け抜ける勇者たちのドキュメント映画、「プライド・ワン」。男達の闘いと冒険を忠実に表現したサウンドトラック盤!

作曲
■ラフ・チェイサー/ヨーロッパ
■クリス・ロー
■ピクチャー・ザ・リターン/マティソン
■レイダークン/マティソン
他全11曲

スピンオフアルバム
「ラフ・チェイサー・ヨーロッパ」
VWPX-1849 ¥700
好評発売中

WORLD GRAND PRIX
PRIDE ONE
プライド・ワン

オリジナル・サウンドトラック

●VIP-28137 Ld VCV-10136 各 ¥2,800 (CD) VDP-1124 ¥3,200
好評発売中



■ファイナル・カウントダウン・フェア記念 ~ アメリカ西海岸旅行会員募集中!



アメリカへ行って **EUROPE** を観よう!!

「ヨーロッパ」日本公演にご来場の皆様へ

★61年秋 アメリカ西海岸で行われる「ヨーロッパ」初のアメリカ・コンサート・ツアーの会員を募集します。
世界制覇に乗り出したヨーロッパをアメリカ西海岸で観ませんか。

★旅行日程は11月中旬4泊6日の予定(詳細は9月中旬に決定します)
★旅行主催: 阪急交通社 協力: 全日空



●お問合せ・ご予約は: TEL (03) 502-1916 長文はあまで



AN UDO ARTISTS PRESENTATION 1986